

「私の少・青年時代」(抜粋)

昭和12年 吹雪の中での湧網線列車大事故

常呂町高齢者教室「昭和62年度オホーツク大学文集トーコロ」掲載

(略) 昭和9年に弟が学校を卒業しましたので、牛1頭を買い入れ、牛乳を出荷するようになって家の収入も良くなり喜びました。11年は作柄は6、7分くらいで、富丘地区に救済工事があり、弟と2人で作業の全日数働きました。11年は少し豊作でした。10月には網走から常呂まで鉄道が開通し、大変便利になりました。

\*注：昭和11年10月10日 網走・常呂間の湧網東線全通、開通祝賀会開催

「当直日誌」には、「午後1時半より常呂小学校運動場において祝賀会開催、式開始より閉会まで約1時間、招待客約350名、村内出席150名、後祝宴盛会裏に終了。午前9時旗行列、午後6時半提灯行列、他に相撲、芝居などをなす」と記載

12年の冬は雪が多く、畑は一面1メートル以上の積雪となり、鉄道も除雪人夫が足りなく苦労していたようでした。2月10日から大吹雪となり、3日間は外にも出られないくらいでした。4日目(注：14日)になってやっと少し良くなり、太陽も見えるようになりました。汽車は不通で、その日の夕方、丸通の人が土佐青年団の藤田団長のところに除雪に出てくださいと頼みに来ました。午後6時頃で全員に連絡もできず、役員だけで出勤することになったのです。1日の賃金は1円でした。

翌日(注：15日)も大きな雪が降り、西風が強く大吹雪でした。ラッセル車が10時頃通過したので、後から汽車が来ると思い12時まで待ちました。

その後、駅から12時半に汽車が通過する旨連絡が出ていたそうですが、私たちの現場までは来ませんでした。12時をだいぶ過ぎ、昼食に田房さん(注：現東浜)の物置を借りていたので、食事に行く途中大遭難となりました。(注：現在の東浜で、線路を通過する列車にはねられたことを指します)13名のうち5名が即死、5名が重傷、3名が無事でした。その後、網走で1名が亡くなりました。(略)

私は意識不明で15日間過ごしました。負傷者と即死者の遺体が午後2時半から運ばれ、5時頃知らせで親たちが病院に着いた時、廊下は負傷者の血が流れて真っ赤に見えたそうです。

私は重傷で最後の診察になり6時頃でしたが、切り傷が12センチで、傷口が丸くなり握りこぶしが入るくらいに見えたそうです。親たちは脳みそが出ているので、バカになるのではないかと心配したようです。2日頃から大変暴れ出し、土佐の青年たち6、7人がかりで押さえつけていただいたようで、そんなことで弟の告別式も2日ほど延ばしたという話でした。3月3日に意識が戻り、自分ながらびっくり致しました。脳の負傷ということで4月5日に札幌鉄道病院に入院。身体は達者になりましたので毎日が退屈で困りました。脳欠損傷は自然療法が一番良いとのことので7月自宅療養となりました。(略)

\*注：「当直日誌」から

2月14日 吹雪のため、列車運行せず  
2月15日 午後零時半頃、東浜田房氏付近にて除雪人夫10名、轢死もしくは重傷を負う